

【研修報告】令和4年度 サービス管理責任者（児童発達管理責任者）更新研修

日 時：令和4年6月30日、7月19日、7月27日、8月9日(いずれか1日)

開催方法：オンライン研修

更新研修の目的・獲得目標

※サビ菅・児発管の資格更新は5年ごと。

- ・行政動向・制度改正等の最新の情報（アップデート）を図る
- ・これまでの業務を振り返るとともに実践内容を確認し、知識・技術の底上げを図る
- ・サビ菅等として、サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ

講義1「障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向（サービス提供の基本的な考え方）」

- ・利用者が福祉サービスを主体的に活用して人生を歩めるように支援していくことが重要
- ・その人の自立あるいは自律を尊重することが需要（自己決定の尊重・意思決定の支援）
- ・それぞれの強み(ストレングス)に働きかけて能力を発揮できるような支援を心がける
- ・権利擁護(アドボカシー)の考え方を個別支援計画の中に取り入れていくことが需要
- ・合理的配慮について、計画書作成・実施の中で実現していく必要がある
- ・情報を共有し、同じ目的に向かって支援を探ることを通してチームワークを構築する
→ 利用者(本人)主体、自立(自律)支援、エンパワメント、ICFの障害構造、権利擁護、合理的配慮、専門性、チームアプローチ、連携等の様々な要素がしっかりと押さえられ、含まれた個別支援計画書が作成され実践に結び付けていくことが重要。

演習

- ① それぞれグループに分かれ、交代で事前課題の報告と質疑をおこなう
- ② グループで話し合った内容を発表し、全体で共有する

演習1「事業所としての自己検証」

サビ菅の業務は、利用者への支援から支援員への助言・指導、苦情解決対応、管理者への報告など多岐にわたるため、環境（風土）を整えるための組織環境について確認する

演習2「サビ菅・児発管としての自己検証」

サビ菅・児発管業務について自己の業務を振り返り、行うべき業務について整理する

演習3「関係機関との連携」

関係機関との会議参加について、どのような連携が望ましいか考える。また、事業所外で生じる問題を地域課題として捉え、解決に向けた関係機関との連携や(自立支援)協議会についての理解を深める